

## 平成13年度社会教育委員の会議（第3回）会議録

- 1 開催日時 平成14年1月30日（水）午後2時～
- 2 開催場所 宇都宮市役所14階14A会議室
- 3 出席委員（15人）  
藤井委員長，藤野副委員長，齋藤副委員長，吉岡委員，須藤委員，桜井委員，  
廣田委員，大房委員，橋本委員，坂井委員，三村委員，鶴見委員，梅園委員，  
小林委員，篠崎委員
- 4 会議の公開・非公開の別  
公開
- 5 傍聴者の数  
1名
- 6 議事
  - (1) 報告事項  
第43回 平成13年度 全国社会教育研究大会について  
研究大会へ参加した藤井委員長から，講演会及び分科会についての報告  
  
第2次宇都宮市生涯学習推進計画の策定について  
第2次宇都宮市生涯学習推進計画の概要について報告  
  
平成14年宇都宮市成人式の結果について  
平成14年1月13日に実施された成人式の結果及び出席した新成人の意識調査についての報告  
  
（仮称）第3図書館建設推進懇談会意見書について  
第3図書館建設にあたっての（仮称）第3図書館建設推進懇談会からの意見書についての報告  
  
平成13年度IT講習事業実施状況について  
今年4月からの事業の取り組み状況及び今後のスケジュールについての報告
  - (2) 協議事項と決議事項  
（仮称）宮っ子育成の日（案）について  
（仮称）宮っ子育成の日については，当該日を制定し，たくましい宮っ子育成に向けた全市的な運動を展開する。  
委員からの提案事項について  
なし

## 7 発言の要旨

### (1) 「第2次宇都宮市生涯学習推進計画の策定について」

橋本委員： 分館がコミュニティセンターに変わり，分館長や分館主事がいなくなるということだが，施設の管理者はどうなるのか伺いたい。

事務局： 基本的には地域の自主的な管理ということになります。平成14年度については，段階的移行措置ということで市民生活課が嘱託員を雇用して管理運営を実施していくことになり，15年度からは，地域の自主的な管理ということでお願いすることになります。

橋本委員： 現在，公民館や分館で実施されている生涯学習事業の事業計画や企画立案は，誰がやることになるのか伺いたい。

事務局： 地区公民館や分館における14年度からの生涯学習事業については，地域振興と一体的に市民生活課が所管することになり，地域の嘱託職員と市民生活課内の地域を担当する職員が中心となって実施されることになります。

橋本委員： 新しい事業の企画立案も市民生活の職員や嘱託員が実施することになるのか伺いたい。

事務局： コミュニティセンターの中に生涯学習の推進組織を作っていたら，地域から選出された組織の方と地域の嘱託員が，地域それぞれの特色を生かした事業を考え，中央，ブロックの生涯学習センターに配置される生涯学習指導員がこれを支援するというを考えております。

橋本委員： 公民館運営審議会に変わるのがこの生涯学習推進組織という解釈でいいのか伺いたい。

事務局： そのとおりです。

小林委員： 市民の立場に立ち，具体的に何がどう変わるのかといった部分をもっと積極的にわかりやすく説明してほしい。

事務局： 現在，市民生活課とともに地域説明会を実施しておりますので，その説明会で使用しております資料等をお出ししながら，次回3月の社会教育委員の会議において再度説明させていただきます。

小林委員： 各地域での共通理解が図られ，混乱がないようにしていただきたい。

### (2) 「平成13年度IT講習事業実施状況について」

小林委員： 事業の実施に当たり，現時点での課題や反省といった総括を伺いたい。

事務局： まず，14年度の事業実施に当たり，各実施会場における応募者の

倍率など、13年度の実績を勘案したうえで各会場における講座数を検討するとともに、県のIT講習で実施された宿泊研修などの企画物の講座設置なども併せて検討して参りたいと考えております。

(3) 「(仮称)宮っ子育成の日(案)について」

篠崎委員： 宮っ子育成の日というのは、体育館等に子どもたちを集めて、作文コンクールなどを実施するという形式のものなのか伺いたい。

事務局： 宮っ子育成の記念事業としましては、市の体育館を貸切まして、その中で一部では講演会や映画会もう一部では子ども達の発表会やランキング大会、親子のふれあいゲームといったものをイメージしております。

対象者としてしましては、小・中学生がメインになりますが、大人と子ども、それ以下の子どもを含めて考えております。

委員長： 宮っ子育成の日を制定することにつきましては、皆さんご異議ありませんか。

橋本委員： 宮っ子育成の日に何を実施するかというアウトラインがなければ、日を制定しても意味がないように考えるが事務局の考えを伺いたい。

委員長： 事業の内容という項目がありますので、その事項での質問ということをお願いします。

篠崎委員： 宮っ子育成の日を制定することに異論はないが、体育館等の一箇所に子どもたちを集めて記念事業を実施しても、それだけで子どもたちがたくましく育つようになるとは思えない。

単に、学校の先生の負担を増加させるだけではないかと考えるが事務局の考えを伺いたい。

事務局： 本市の基本的な考え方としましては、全市的に子どもの育成の取り組みを拡大していくために、宮っ子育成の日を制定し、対外的にアピールできるような事業を実施したいというのがございます。

そのため、先程ご説明いたしました記念事業の素案というものは事務局にございますが、具体的な事業につきましては、各種団体や地域の方々に組織する育成の日推進のための実行委員会からもご意見をいただき、協働により作り上げていきたいと考えております。

また、こうした形を採ることにより、地域から湧き上がるような運動の展開が可能になるのではないかと考えております。

篠崎委員： 「家庭の日」における家庭での取り組みは、十分になされておらず、育成会活動にしても停滞しているような地域の現状を考えれば、一日だけの記念事業の実施だけでは、全市的に子どもを育てる機運の醸成を図るのは困難である。

内容を十分に検討した上で、事業に取り組んでいく必要がある。

三村委員： 「子ども」という言葉よりも、「市民が関心を持ち」であるとか、「推進運動」という言葉が多く使用されているが、基本的に誰のために取り組むものなのか伺いたい。

事務局： 全市民的運動の展開ということで、まず、「子どもを育てる」ということを親を含めた地域の方々に、意識を持っていただきたい。  
子どもたちについては、個々の事業の中で、さまざまな体験を通じて生きる力を学んでもらえるように考えております。

鶴見委員： 全市民的な部分と子どものためにとということを見ると、各地域で個々に実施されている子どもたちのための取り組み内容をそのまま全市版的なものにするのではなく、地域のコミュニケーションをとる方向に重点を置き、その成果を発表できるようなことも必要があると感じている。

子どもの問題というと、行政でいえば、青少年課や児童福祉課などでも同じような事業を個々に取り組んでいる場合があるが、実際は、地域の子どもたちや大人が深くそうした事業に関わって関わりを互いに持ち合うということが大切である。

公民館のセンター化にしても、地域の主体的な学習活動や地域の連携により、地域に教育力を取り戻そうという観点での改革でもあると思うので、行政を始め、地域の核となる組織や団体等の横の連携に視点を置いて、そこに深く関わる方策を考えた上で、記念事業などを考えていただきたい。

新たな事業を取り入れることも必要であると思うが、学校週5日制を契機として、今まで個々に展開されている事業等について、地域全体として子どもたちを育てる意識の涵養を図るようなものに改善することも検討していただきたい。

事務局： 今こうした事業を展開するに当たりまして、各課の事業を調整して市全体としての学校週5日制に対する取り組みが何か調査したところもあります。

そうした意味で、これまで横断的な取り組みが出来ていなかった部分がございますので、今後はこうした部分も含めて、宮っ子育成の日に集約できるようなものにしていきたいと考えております。

篠崎委員： 私の地区では、3月に育成会が主体となって、地域で子どもを育てるような事業を実施する予定である。

大きな記念事業を中心とした推進運動の展開方策もあるが、こうした地域活動を中心とした推進運動の展開もあると考えている。

坂井委員： 学校週5日制が実施されると長期休暇を含めて、100日以上のお休みとなり、年間の3分の1が休みとなる。

子ども会関係者としては、毎日が子どもの日と考えている。

年に1回何か事業を実施したところで子どもの健全育成ができるものではなく、それ以前に、指導者を育成するのが重要である。

今、子ども会、青少年育成市民会議、青少年指導委員会合同で、技

術的なものやそれ以外の総括的な指導者研修を実施することを検討している。

宇都宮市の家庭の日の取り組みは、県内の他市に比べても引けを取らないと感じているが、その「家庭の日」の運動が始まってから30年以上経過しているが、毎月実施されている「家庭の日」でさえ、未だ定着していないという現状を考えれば、宮っ子育成の日を制定するならば、一日だけのものではなく、毎月実施するような継続的な取り組みとする必要がある。

事務局：事務局としましては、まず、宮っ子育成の日を定め、当該日をアピールできるような記念事業等を今後検討するとともに、この日を冠にして、各月ごとの事業を展開することもできるのではないかと考えております。

桜井委員：対象者は、小・中学校生が中心ということになると思うが、小学生と中学生では、事業として取り組む内容を変える必要があるのではないかと感じている。

また、分野を問わず、地域の先生ということで、教壇に立つことができるような人材の発掘を実施し、それぞれの地域や学校で月一回でもいいからこうした人材を活用した事業を展開するといった「人材発掘と受け皿」の確保が重要であると感じている。

事務局：対象者につきましては、小・中学生を中心として、小学生以下の幼児や保護者を考えており、全体として宮っ子育成の気運が高まるような取り組みとしていきたいと考えております。

大房委員：内容、規模、会場、時期、参加人数特に中学生については、部活、様々な大会等がありますので、小学生のみの参加とならないように配慮することも必要であると考えている。

齋藤副委員長：地域の問題と全市的な問題が重層構造化しており、その重層構造を維持していくためには、システムが必要となるが、そのシステムをどのように構築するかが問題となる。

今までにシステムがないところで、全市一斉に運動を展開するというのは困難であるとする。

しかし、各地域には、今までに取り組まれてきた実践活動があるので、その活動の中で先進的な活動事例を持つ地域は見本を提示し、それ以外の地域では、こうした先進事例を取り入れるようにして、全市に広がるような取り組みとするのが望ましいと考える。

須藤委員：「宮っ子育成の日」が「とちぎ教育の日」のように、各種の団体や地域の人々が全て集まって、子どもたちの健全育成のために、普段から実践している活動の総括を行う日として、意義を確め合ったり、アイデアを出し合い、その総括の中で各々得られたものを各地域に持ち帰り地域で生かすことが出来るような日とするならば大変意義のあるものであると考えている。

また、毎週土日に何かやらなければならないという発想も考えなければならない、家庭の日と連携し、子どもたちを家庭に戻すということを施策に反映することも必要だと考えている。

事務局： 事務局としましては、最終的には、「地域全体で子どもたちを育てる」というような活動や行事が、各地域において活発に展開され、全市的に大きな拡がりに繋がることが大切であると考えております。

そこで、「宮っ子育成の日」を制定し、この日が、各地域において実践されている子どもたちの健全育成に係るより良い活動の発表の機会となり、また、ここでの発表を通じて得たものを各地域で生かしていただける機会となれば良いと考えております。

須藤委員： 宮っ子育成の日を推進する組織の位置づけや性格を伺いたい。

事務局： P T A , 子ども会 , 青少年指導員会など子どもたちの健全育成に携わっていただいている団体等を中心として実行委員会を組織していただき、市と協働で「宮っ子育成の日」の事業等に取り組んでいただくことを考えております。

篠崎委員： 実行委員会の人選に当たっては、委員長をはじめ、実践活動に従事されておられる各種団体から選出されている委員の方や校長会選出の委員の方に、改めてご意見をいただくようにした方が良いと考える。

委員長： 委員の皆さんのご意見は大変貴重な意見だと思われる。

事務局の中には、現在、子育ての最中の方もいると思うが、子育てを通じた親としての苦労や悩みがあると思うので、そうしたものを踏まえて「宮っ子育成の日」のあり方を考えてみることも必要ではないだろうか。

鶴見委員： 「宮っ子育成の日」は、各種団体や保護者を含め、子どもに関わる地域の方々が一堂に介し、地域における子育て問題を考え、話し合う機会として、全市的な取り組みにするのが望ましいと考える。

また、行政としては、宮っ子育成のための方向性を示すとともに、こうした地域の取り組みやシステムづくりを支援することが、重要だと考えている。

坂井委員： たくましい宮っ子を育成するためには、「宮っ子育成の日」を充実するだけでなく、はつらつ宮っ子プラン全体の効果的な推進が必要である。

三村委員： 「宮っ子育成の日」が「とちぎ教育の日」と同じように、各種の団体や地域の人々が一堂に介し、子どもたちの健全育成のために、普段から実践している活動の総括を行う日となるようにしたほうが良いと考えている。

小林委員： 今現在、「家庭の日」をはじめ、色々な日があるが、いずれも取り組みが不十分であり、まず、やるべきことをやってほしいと考える。  
また、所管課が異なるだけで、同じような事業が実施されないよう、役所内での窓口や事業の整理をしてほしい。

委員長： それでは、これらの意見を踏まえ、事務局において、成案にしてい  
く中での参考にしていただきたいと思います。

## 8 その他

事務局から次回の開催について、3月18日予定との連絡